

## 論点2 志縁組織(活動)と地縁組織(活動)との連携について

STEP 1

問題提起 エピソード「あるお母さんのお話」



### なぜかそりが合わない志縁組織と地縁組織

フォーラムメンバーの竹下さんは小さな市民活動に取り組んできたお母さんです。彼女にとって地縁組織は「昔ながらの上下関係が残り、<いりびと(新しく越してきた住民)>と<ざい(昔からの村人)>に分かれ、自分達の活動を理解し協力してくれないばかりか、ときとしては邪魔になるもの」でしかありませんでした。地縁組織の長との確執で仲間が疲弊したことも活動が継続しなかったひとつの要因だとも聞きました(もちろんそれ以上に、資金面の問題や次の活動を担う仲間集めのしんどさが大きな要因ですが)。竹下さんのグループだけではありません。地域の中で新しい活動に取り組んだときに、地域のエライさん方(町内会長など地域住民組織の役員さんなど)に理解してもらえなかったり、あるいは反目したりしてやる気がそがれたという話はよく聞きます。

一方、地縁組織の人たちにとっては、自分たちの想いだけで突っ走る「新参者」は、これまで地域で大切にしてきた決まりごとを尊重せず、地域で果たすべき役割もしない要求ばかりする勝手な人に見えるのかもしれない。それでは“生の声”に耳を傾けてみましょう。



### ✿ ちょっと聞いてよ！ ~フォーラムに届けられた市民の声~

#### 根強い地域の「年功序列」

私は40代で地域のワークショップに参加していますが、私が一番その中で若いんです。60代や70代の方が中心となっている。その中でうまくやっていきたいなと思っているんですが、周りの方は高齢の方ばかりなので、その中で私が発言しても受け入れてくれないんです。ワークショップであっても受け入れてくれない。それで半年間くらいの期間中に一生懸命色々な人に話し掛けて、初めて、ワークショップの中の役割を任せてもらえました。【円卓会議参加者】

自分の思いだけでは…。

地域には既存の地域活動をやっておられる方がいらっやって、常にまちを良くしたいと思って活動されておられると思うんです。既存の団体の活動に対抗するようなイベントをやったって、当然受け入れられないし、反発をくらうだけです。【地縁組織役員・円卓会議より】

## ✻ 私はこう考える！～議論の現場から～

やる気の喪失感…。



私が市民参加推進フォーラムの市民委員に応募したきっかけは、地域活動やPTA活動に参加しながら感じた「やる気の喪失感」からでした。自治会を見ても、地域の各種団体を見ても、日々の暮らしの中で実際に活動を支えているのは子どもの保護者がほとんどだと思いますが、子どもの安心安全を考えると、どうしても地域の協力は欠かせません。おかあさん達は「ありがとうございます」という感謝を表しながら、極度の緊張で地域の「長」のつく方と付き合っています。仲間と何かをやり遂げる達成感に喜びを感じたとしても、それを越えたしんどさを経験すると次に続いていきません。京都市でも地域によって現況は異なるでしょうが、町中から外れていくと昔ながらの上下関係で成り立っている地域組織や「いりびと」「ざい」に住民が分かれている地域があることを知って欲しいと思います。【竹下さん】

「勉強させてもらう」姿勢も大切



地域のなかで改革をするためにも、今まで培ってきたものを急に変えるのではなく、機が熟するまでは「勉強させてもらいます」という姿勢も必要かと思います。地域の中で影響力を及ぼすようになるためには自分が努力するしかない。自分の行動力によって、理解や打算を考えずに動くことによって認めてもらい意見が通っていくようになる。これは自分で勉強していかなければ仕方がないなと思います。【西嶋さん・円卓会議より】

### 【参考】竹下委員の志縁活動（廃バス利用の地域開放型図書館の設置・運営）

バス会社から寄贈された廃バスを利用して、小学校に子どもたちのために地域開放型の図書館を作った取組。廃バスのサビ落としや色塗り、内装の整備などを地域のお父さんやお母さん、学校などが協力して行い完成させ、開館後は、子育て支援団体の会場として利用されたり、母親たちが絵本ボランティアとして読み聞かせを行うなど、地域の活動拠点となっている。



## STEP 2

## 議論・分析

## ホンマは近い志縁活動の担い手と地縁活動の担い手の想い

フォーラムには、西嶋さんという本能学区で地域まちづくりをがんばっている方もいます。本能学区は新しく越してきたマンションの人たちも参加し、地域としての誇りを感じられるような地域活動を展開している「地域まちづくりの先進地」のひとつです。その西嶋さんは、竹下さんの悩みを聞いて「こんなにやる気があって、地域のことに取り組んでいる人を地域活動の中に取り込めないなんてもったいない」と言います。多くの地域住民組織は担い手の固定化（一部の人だけががんばっている）と高齢化、さらには参加者の減少に悩んでいるわけですから、竹下さんのようにやる気のある若い人達が地域の課題に取り組んでくれることは願ったりかなったりのはずなのです。

考えてみれば、竹下さんのような小さな志縁活動の担い手達も、西嶋さんのような地縁活動の担い手達も、テーマの違いや取り組み方に違いこそあれどちらも「この地域をよくしたい。みんなが機嫌よう暮らせる地域にしたい」という想いをもって地域活動に取り組んでいるのですから、ホンマはとても近い存在のはずです。協力・協働もできるはずなのです。もっと言えば、地域の中を見渡したら、志縁活動にも地縁活動にも無縁な「無関心な人たち」の方が圧倒的に多いわけですから、志縁活動の担い手と地縁活動の担い手は地域の中では少数派の「仲間」だと考えたほうがいいのかもかもしれません。



## ✿ ちょっと聞いてよ！～フォーラムに届けられた市民の声～

自分たちの活動を知ってもらおう努力を

「自分たちの活動を知ってもらいたい」という思いは地縁の方であろうと市民活動の方であろうとあると思います。自分たちの枠を超えて「こういったことをやりたいんだよ」ということを発信する、その中で「おもしろいな」と思ってもらえる方が地縁の方であったり、市民活動の方であったりということはあると思うので、お互いに発信をもっとすることが必要だと思います。【円卓会議参加者】

## ✿ 私はこう考える！～議論の現場から～

否定ではなく肯定する姿勢が大切



地域によって状況は違うと思いますが、どのような課題も「否定からではなく、肯定から物事を進めるところから入ること」が原点だと思います。その心掛けがあるかないかで、結果に雲泥の差を生みます。私はどんな案件でも、前向きに話をし、お互いに擦りあわせをしていこうという気持ちで取り組んでいます。協力をできるところはできるだけ協力をさせてもらうという気持ちを持っていれば、また相手も快く協力してくれます。それがまちづくり委員会の活動を通じて、一番勉強になったことです。【西嶋さん・第4回市民活動部会より】



だったらなんで一緒にできへんのやろ？

竹下さんのような志縁組織で活動をしている人たちは、地縁組織について「壁が高くてどこに取り付いていいかわからない。話そうとしてもぶつかってしまう」と語ります。

一方、地縁組織でまちづくりを頑張っている西嶋さんは、「正論が通らない」「上のものが勝手に進めている」という地縁組織に対する批判をその通りだと認めつつも、「地域に顔を知ってもらうには(自分の意見を通すには)10年かかるもんや」と語ります。

## ✻ 私はこう考える！～議論の現場から～

### “地のひと”と“新規住民”



地域によっては、未だに地の人と新しい住人という目に見えない区分けがあるそうです。地域の中に入っていくということはその人自身が相当努力しないと入れてもらえないのではないかなということは聞いたことがあります。【川名さん・円卓会議より】

### 地域活動は10年かかる！？



古くから地域に住んでいる人たちは、やはり自分たちの地元に誇りを持っています。ところが、せっかく先人から受け継いできた文化を継承していくところに、改革、改革となっていくと、せっかく今までの町内の仕組みというものが崩れてしまいます。地域である程度信頼を持ってもらえるまでには多少の期間が要るのではないかなと思います。ですから自らが積極的に地域に入ってきてもらったら、その道も早くなるのではないかなと思います。僕も若い頃に70代、80代の方ばかりのなかに入り込んで、結局10年くらいはこれといった意見は言えませんでした。先輩連中から「なにが意見はないか」と言ってもらえるようになったのが、更にもう5～6年経ってからです。その頃にやっと認めてもらえたんですよ。【西嶋さん・円卓会議より】

### 「地域の常識」VS「理屈・正論」

地縁組織の担い手と志縁組織の担い手の違いはどうやら、既存の「地域の常識(地域なりのルールや仕組みや人間関係)」のなかで動いている(あるいは西嶋さんのように「常識」を理解したうえで活用している)人と、「地域の常識」がわからないで右往左往していたり、「地域の常識」に反発してもがいている人との違いなのではないでしょうか。ですから地域のなかで自分の想いを実現しようとするとき、地縁の人たちはまずは「地域のなかで汗を流す=役割を担う」ことから入ろうとし、志縁の人たちは「理屈・正論・私の考え」で迫ろうとします。どちらがいいか悪いかを論じたいわけではありません。問題は、両者の姿勢の違いが双方の理解を妨げ、協力協働を難しくしているという事実です。





### お互いにわからなきゃ・お互いにかわらなきゃ

本能まちづくり委員会や梅津まちづくり委員会の活動内容を知った竹下さんは「自分の地域がこんなところだったら一緒にやれたかもしれない」と語っています。また西嶋さんは竹下さんの話を聞いて「地域活動している自分でもよくぶつかるよ」と言います。

じつは地縁組織もそこで活動する人たちもいろいろです。多くの志縁活動の担い手達がぶつかったと感じる「壁」にも高いところもあれば低いところもあります。もしかしたら「壁にぶつかった」と思っていたものが、たった一人だけの障害物、路傍の石につまずいただけだったのかもしれない。竹下さんが(多くの志縁活動の担い手達が)地域というものの仕組みとそれへの対処の仕方を少しでも知っていたら、あるいは(西嶋さんが語るように)地域で何かしようと思ったら地縁組織の人だっているんな石にぶつかって当たり前だということを知っていたら、もう少し余裕を持ってうまく地縁組織の人たちと付き合えたかもしれません。

一方、「地域で顔を覚えてもらうには10年かかる」という考え方では、若い世代は付き合いきれません。「地域の常識(ルール・仕組み・人間関係)」がすべて悪いわけではないと思いますが、それを鵜呑みにして押し付けるのではなく、きちんと見直して、個々人の態度も組織のあり方も、直すべきところは直していくことが大切です。相手にわかる言葉でちゃんと伝える努力が、地縁組織の人たちに求められています。

#### 【参考】本能まちづくり委員会

##### 【活動主旨・目的】

都心部にマンションが増加する中、新しい住民を迎え、旧来以上に住民交流を促進し、子どもから高齢者の多世代がくらしやすいまちをつくること、地域に受け継がれている京染めなどの伝統文化・産業技術を見つめ直し、世界に発信することによってその活性化をはかること、を目的に活動しています。

##### 【具体的な活動内容】

歴史の残る職住共存地区のまちを継承するための活動

「本能学区地域計画」地域計画の方針策定。14年8月都市計画決定

「本能学区で新たに建設行為をされる皆様へ」作成

新たな建設行為が「本能学区地域計画」に沿ったものになるよう呼びかけるものを作成

「本能学区まちづくりのしおり」制作

平成15年3月に「本能学校地区計画」の内容をよりわかりやすく説明するために冊子を作成

「歩いて暮らせるまちづくり まちなかを歩く日～おいでやす染めのまち本能～」の開催

住民交流をはかるための活動

「本能夏祭り」の実施

自治連合会や各種団体の協力のもとに、模擬店・子ども対象ゲーム場・盆踊り・抽選会などを実施しています。

まちづくり意識を高めるための広報活動

「本能まちづくりニュース」の発行

本能まちづくり委員会の活動報告等を掲載していたニュースレターを、配布しています。

##### 【組織の特徴】

本能学区自治連合会に直属している組織であり、自由参加を基本として活動しています。

##### 【団体の基礎情報】

会員数 35名(役員数 10名)

HP アドレス <http://www.honnoh.net>

## ✿ ちょっと聞いてよ！～フォーラムに届けられた市民の声～

同じテーブルについてみて！

地縁の方々のネットワークというものはまぎれもなく素晴らしいものがあります。ただそのネットワークをどう運営されているか、というところと、どう活かされているかというところがなかなか見えてきません。場合によっては膠着している部分もあるように思えます。一方、テーマ別の市民活動をされている方は、活動に対する思いは強いが、思いをきっちり伝えていって行動に移すということを性急にされることがある。考え方にズレがあることが多々あると思います。ただしズレがあるのは仕方ないので、どのように同じテーブル、または同じ場に持っていかということが重要なのではないのでしょうか。【円卓会議参加者】

### 【参考】梅津まちづくり委員会

#### 【活動主旨・目的】

「自分たちのまちのことは自分たちで」を合言葉に、「人と人、人と自然とのつながりを大切に、子どもたちが健全に育つ環境と、みんながより良い人生を築いていける、「住民が誇りに思う地域づくり」を目標に、自治会、各種団体、行政とのパートナーシップのもと、「環境づくり」「人づくり」「仲間づくり」を支柱にして、住みよい我がまちの実現を目指して様々な活動を展開しています。

#### 【主な活動内容】

まちづくりの様々な事項について、自治会、各種団体、行政とのパートナーシップのもと「環境づくり」「人づくり」「仲間づくり」を支柱に柔軟かつ横断的に取り組んでいます。

##### 「環境づくり」の取組

京都市とパートナーシップをとりながら有栖川ワークショップを開催し、構口橋から南橋区間の改修計画に取り組みました。この中で有栖川と構口公園の一体化案が参加者全員の思いとしてまとめ、その後もこの実現に向けて検討を重ねています。

##### 「人づくり」「仲間づくり」の主な取組

###### 「梅津まちづくり交流祭」の開催

毎年、各種団体の協力や一般からの参加を得て、「絵画コンクール」などの各種イベントや模擬店、パネル展示などを行っています。

###### 「生ゴミからつくる花と緑がいっぱいのまち」の開催

家庭から出る生ゴミを堆肥化し、花や木・野菜づくりを行っています。

###### 「めだかの学校『川に学ぶ』僕と私、親と子の体験学習」の開催

梅津小学校の児童らとともに学区内を流れる有栖川の生き物調査をし「生き物マップ」を作成。またボランティア活動の推進について梅津社会福祉協議会との懇談会などを行いました。

###### 「わがまち再発見・梅津まちづくり探検隊『まち歩き探検マップ』」の作成

平成11年度に実施した梅津のエエトコ、キニナルトコを見て回るタウンウォッチングの結果をとまとめ、梅津の全世帯へ発信しています。

#### 【組織の特徴】

相談役に梅津学区自治連合会長を迎えるなど、学区内の各種団体として位置づけられている組織であり、自由参加を基本として活動しています。

#### 【団体の基礎情報】

会員数 108名（役員数 28名） HP アドレス <http://kyoto-umedu.jp>

## ✿ ちょっと聞いてよ！～フォーラムに届けられた市民の声～

積極的に地域に参加しよう！

地域の方は思っていることを話してくれないんですね。一人ひとりの努力だと思うんですが、なんでもいいから話をしたり、まずそこでやっているイベントに参加していくとか、うまく地域に自分から飛び込んでいって、参加していくというアクションを起こしていかないと志縁活動と地縁活動は融合しないのではないかと思います。意見や提案を持っていく前に、その地域の企画に自分が参加するとか、そういうことが一つのきっかけになるのではないかなと思います。【志縁活動実践者・円卓会議より】

## ✿ 私はこう考える！～議論の現場から～

遠くはないんだ！地域活動



私は今まで活動をしたことがない立場なので、どういう関わりを持ったら地域活動というものができるのかも知らない状態でした。しかし今回、市民参加推進フォーラムに参加して色々勉強させてもらい、若い世代でも参加していける場所があるのだと感じました。自治会というものは縁のないものと思っていたのですが、自分たちで縁がないと思っているだけで、自治会は縁を求めている可能性があります。そこに近づいていこうという意識の問題だと感じました。【藤澤さん・第12回会議より】

気軽に参加できる環境づくり



私は消防団に入っていますが、たまたま地域の知り合いの方に紹介していただいて入ったものです。そこで思うのは、やはりどうしても地縁組織の輪に仲間入りを果たすのは紹介されてというパターンが一番多いということです。これが、もう少し、地域にあまり知り合いがいない人でも参加しやすい仕組みになれば、新人が参加できる機会が増え、新陳代謝が活発になって活動が活性化するのではないかと思います。例えば、消防団とか、体育振興会とか、少年補導委員会などの入会案内や活動内容を区役所などがもう少し積極的にPRしたり、地縁組織の人たちも、新しい住民でも参加しやすいように配慮するなど、受け入れの態勢を、もっとしっかりと確立する必要があると思います。【千葉さん】

自治会に新しい風を吹きこむ環境づくり



地域の連帯感をこれからも維持していくには、自治会という組織に新しい風を吹き込んでいく必要を感じています。次のまちづくりを担う世代や若い層が、のびのびと意見交換できる雰囲気を目指します。【竹下さん】



## STEP 3

## 課題抽出

以上の議論から以下のような課題が抽出されました。

志縁活動と地縁活動は、本当は近いのに連携しにくいという現状がある。

志縁活動と地縁活動が連携するためには双方が理解を深め、お互いに近づく努力が必要である。

